

ねらい

学校給食は、成長期にある児童生徒にバランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進と体位の向上を図り、正しい食事の在り方や望ましい食事習慣を身につけさせ、生涯を通じて健康で活力のある生活を送るための基礎を培うことをめざしています。

現状と課題

< 学校給食の概要 >

区分	小学校	中学校
実施校数	40校	22校
対象人員	19,813人	8,613人
年実施予定回数	190回	96回
給食費	高学年 月額 3,800円	年額 4,300円
	低学年 月額 3,650円	

< 小学校給食費内訳（低学年・高学年平均） >

主食	パン	49円33銭	主食平均 53円23銭
	米飯	57円13銭	
牛乳			44円48銭
副食	パン食用	121円84銭	副食平均 117円94銭
	米飯用	114円04銭	
1食当たり			215円65銭

（平成20年5月1日現在）

- * 中学校21校の給食はミルク給食を実施しています。
（うち5校は平成20年11月よりデリバリー方式の給食を実施しています。）
- * 楠中学校では完全給食を実施しています。（月額3,700円）

< 児童1人1回当りの学校給食摂取基準 >

	エネルギー (Kcal)	蛋白質 (g)	脂肪 (g)	食塩相当量 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	亜鉛 (mg)
基準栄養価	660	20	エネルギーの 25%~30%	2.5未満	350	3	2
	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)	食物繊維 (g)	マグネシウム (mg)	
基準栄養価	140	0.4	0.5	23	6.0	80	

平成20年10月23日 文部科学省の基準改訂

小学校

- ・ 米飯は、地場産の特別栽培米を利用して、週 2.5 回米飯給食を実施しています。
パンは、県内産の小麦粉を 20% 混入して、地元業者で焼いたパンを週 2.5 回実施しています。
- ・ 副食は旬のもので出来るだけ地場産物を使用し、日本の伝統料理や郷土料理を取り入れています。
- ・ 通常の給食以外に、外で食べる弁当メニューや、給食記念日特別メニュー、6 年生対象の卒業祝膳会メニューなど、特色をもたせています。
- ・ 衛生管理面ではドライ運用を図りながら、衛生管理の充実及び食中毒防止に努め、また、HACCP(危害分析重要管理点方式)の概念を取り入れ、順次衛生改修を行っています。
平成 20 年度末現在、衛生改修実施済み校は 30 校、進捗率は 76.9%となっています。

* HACCP(危害分析重要管理点方式)とは、食品製造業における自主的な衛生管理の方法であり、商品の原材料生産から製造・加工、保存、販売及び流通に至るまでの各段階で発生する恐れのある危害をあらかじめ考慮し、その発生を防止するための衛生管理システムのことである。

以上のような現状の中、さらなる食事内容の充実、増え続けている食物アレルギー児童への対応とともに、給食業務運営の合理化を進めていきます。

中学校

- ・ 昭和 40 年度から、楠中学校以外の 21 校でミルク給食を実施しています。
- ・ 市教育委員会が栄養バランスのとれた献立作成や食材の選定に十分に関わって、民間給食業者を活用したデリバリー方式の給食を、家庭弁当との選択制で平成 20 年 11 月より中部中学校・山手中学校・三滝中学校・大池中学校・三重平中学校で先行的に実施しています。平成 21 年度以降、全中学校へ展開していきます。

幼稚園

- ・ 平成 20 年 6 月よりデリバリー給食を週 1 回程度実施しています。

今後の改善方針

学校給食の食事内容の充実について

学校給食の食事内容の充実を図り、学校給食を「生きた教材」として、食べ物を大切に、自分で自分の食生活が考えられる子どもを育成していきます。

食物アレルギー等への対応について

増えつつけている食物アレルギー児童に対して、対応マニュアルを作成し、学校と家庭が連絡を取り合い、出来る限りの対応をしていきます。

学校給食業務の運営の合理化について

自校調理方式の、衛生面、教育的効果等のよさを生かしながら、コストを押さえるため「なかよし給食」を継続します。また、調理業務民間委託については、平成 19 年度から 2 校、平成 20 年度から 2 校で実施しており、さらに平成 21 年 4 月から 2 校で実施します。これらの検証と円滑な運用を図り、今後の実施計画について検討します。

中学校給食について

先行実施校でのデリバリー給食の検証をふまえて、平成 21 年度以降、全中学校で実施し、中学校での食育をさらに進めていきます。